Anywire 株式会社エニイワイヤ

AnyWire DB A40 シリーズ
商用電流測定 PDU
A439SW-J2CT2-2□□/R
ユーザーズマニュアル

1.2 版　2026/07/24

ビット伝送と情報伝送の統合
省配線システム

全4重

AnyWire DB A40 シリーズ

UMA-20172AC

注意事項

本書に対する注意

1. 本書は、最終ユーザまでお届けいただきますようお願いいたします。
2. 本製品の操作は、本書をよく読んで内容を理解した後に行ってください。
3. 本書は、本製品に含まれる機能詳細を説明するものであり、お客様の特定目的に適合することを保証するものではありません。
4. 本書の一部または全部を無断で転載、複製することはお断りします。
5. 本書の内容については将来予告なしに変更する場合があります。

警告表示について

「警告」とは取扱いを誤った場合に死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

「注意」とは取扱いを誤った場合に障害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

安全にご使用いただくために

- ◆ AnyWire製品をご使用になる場合は、万一製品に故障、不具合が発生しても重大な事故に至らない用途であり、また、フェールセーフ、バックアップ機能は弊社製品の外部でシステム構成されていることを条件とさせていただきます。
- ◆ AnyWire製品は、一般工業等の用途を対象とした汎用品として設計されており、また安全確保を目的とした制御機能を有するものではございません。
  従いまして、医療機器、原子力等発電所、鉄道、航空、安全用機器等、高い安全性が必要とされる用途については適応を除外させていただきます。
- ◆ 設置や交換作業の前には必ずシステムの電源を切ってください。
- ◆ AnyWireシステムはこのマニュアルに定められた仕様や条件の範囲内で使用してください。
- ◆ 定格電流・定格電圧を超えた条件下で施工しないでください。
- ◆ 電線ケーブルは適用サイズを使用してください。
- ◆ 単線・撚り線を直接接続しないでください。適用電線に適用圧着端子を用いて接続してください。
- ◆ 電源ケーブルの被覆をむくときは、芯線を切らないでください。
- ◆ 端子ネジは確実に締付けを行なってください。
- ◆ 輸送時に端子ネジが緩む場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。
- ◆ コンセント1口は10A以下で使用してください。また、1系統は合計15A以下、2系統は合計30A以下でご使用ください。
- ◆ 分解・改造は絶対にしないでください。
- ◆ 電源ケーブルを束ねて使用しないでください。

◆ 周囲温度40℃以下でご使用ください。
◆ プラグを差込口に垂直に奥まで差し込んでください。絶対斜めに差し込まないでください。
◆ サーキットプロテクタが動作し回路が遮断された場合は、原因を取り除いてからハンドルをONにしてください。
◆ 通電中に電源接続部のカバーをあけないでください。

⚠ 注意

◆ 本機の設定には、「アドレスライタARW-04（Ver.04-1.01以降）」が必要です。
◆ AnyWireシステム全体の配線や接続が完了しない状態で24V電源をいれないでください。
◆ AnyWireシステム機器には24V安定化直流電源を使用してください。
◆ AnyWireシステムは高い耐ノイズ性を持っていますが、伝送ラインや入出力ケーブルは、高圧線や動力線から離してください。
◆ ユニット内部やコネクタ部に金属くずなどが入らないよう、特に配線作業時に注意してください。
◆ 誤配線は機器に損傷を与えることがあります。また、コネクタや電線がはずれないように、ケーブル長や配置に注意してください。
◆ 端子台に撚り線を接続する場合、ハンダ処理をしないでください。接触不良の原因となることがあります。
◆ 電源ラインの配線長が長い場合、電圧降下により遠隔のリモートユニットの電源電圧が不足することがあります。その場合にはローカル電源を接続し規定の電圧を確保してください。
◆ 設置場所は下記の場所を避けてください。
  ・ 直射日光があたる場所、使用周囲温度が0～+40℃の範囲を超える場所
  ・ 使用相対湿度が10～85%の範囲を超える場所、温度変化が急激で結露するような場所
  ・ 腐食性ガスや可燃性ガスのある場所
  ・ 振動や衝撃が直接伝わるような場所
◆ 端子ねじは誤動作などの原因にならないように確実に締め付けてください。
◆ 保管は高温・多湿を避けてください。保存周囲温度-10～+50℃（氷結、結露なきこと）
◆ 安全のための非常停止回路、インターロック回路などはAnyWireシステム以外の外部回路に組み込んでください。
◆ 19インチラック等に固定してご使用ください。
◆ 水のかかる場所、高温、低温、多湿、粉塵の多い場所に取り付けないでください。
◆ コンクリートや漆喰の半乾燥状態では施工しないでください。
◆ 硫黄ガスやアンモニアガスなどの多い場所に取り付けないでください。
◆ 食用油が付着しやすい場所には取り付けないでください。
◆ 接地（アース）は確実に施工してください。
◆ 器具の取り付けは、必ず工事業者に依頼してください。資格保有者以外の方の取付は、法律で禁止されています。
◆ ほこり、湿気の多い場所ではプラグを長期間差しっぱなしにしないでください。ときどき、表面や刃と刃の間を掃除してほこりをとってください。

- ◆ 電源ケーブルを無理に曲げたり、ねじったりしないでください。
- ◆ 電源ケーブルを機器やラックに挟み込まないでください。
- ◆ 電源ケーブルに熱いものを近づけたり、加熱しないでください。
- ◆ タコ足配線はしないでください。
- ◆ 刃の曲がったプラグを使用しないでください。
- ◆ 中途半端な差込状態で使用しないでください。
- ◆ プラグの抜き差しが極端に弱い状態で使用しないでください。
- ◆ 洗剤や殺虫剤をかけないでください。
- ◆ トイレの液体洗剤をかけないでください。
- ◆ 外郭カバーなどが割れた状態で使用しないでください。
- ◆ 濡れた手で触らないでください。

目次

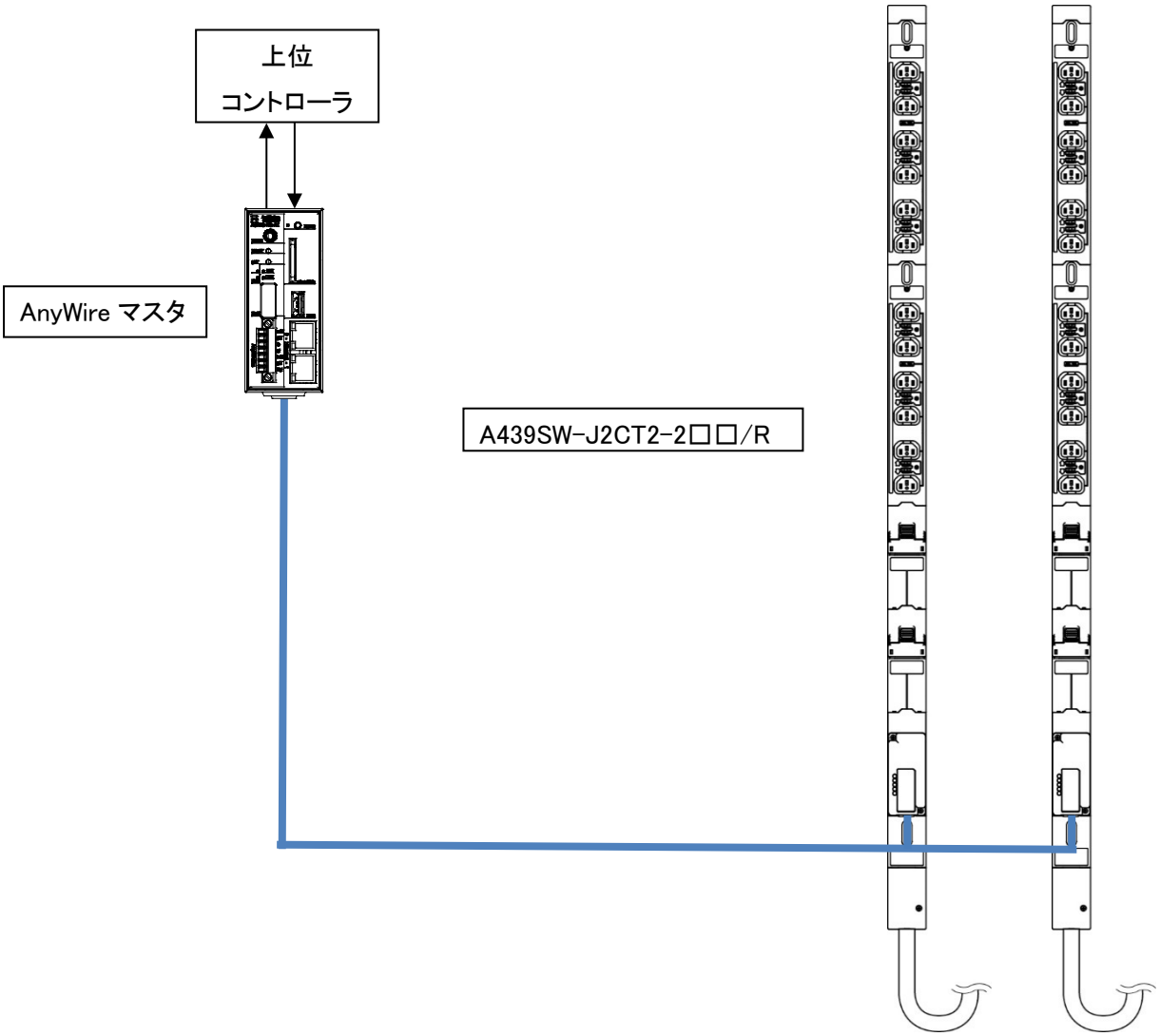
1 概要 1-1
2 仕様 2-1
2.1 一般仕様 2-1
2.2 伝送仕様 2-1
2.3 個別仕様 2-1
2.4 外形寸法図 2-2
2.5 各部の名称 2-3
3 施工と使用方法 3-1
3.1 コンセント取り付け方法 3-1
3.2 電線接続方法 3-1
3.3 使用方法 3-1
4 AnyWireBus 設定（アドレス・通信速度） 4-1
4.1 各種設定 4-1
5 ハードウェア仕様 5-1
5.1 内部ブロック図 5-1
5.2 伝送ライン接続用端子台配列 5-1
6 測定仕様 6-1
6.1 電流入力 6-1
6.2 電流値の計算 6-1
6.3 電圧入力 6-1
7 LED 表示 7-1
8 スケーリングについて 8-1
9 データ構成 9-1
9.1 リモートユニット（本機）→マスタ 9-1
9.1.1 測定モード 9-1
9.1.2 設定モード 9-2
9.1.3 CRC 通信モードについて 9-3
9.2 マスタ→リモートユニット（本機） 9-4
9.2.1 アドレス割付（設定モード時） 9-4
10 設定値の読み書き手順 10-1
10.1 設定値の読み出し方法 10-1

10.2　設定値の書き込み（変更）方法 10-1
11　保証について 11-1
12　変更履歴 12-1

1　概要

このユニット A439SW-J2CT2-2□□/R は AnyWireBus DB A40 に接続する、インテリジェント PDU(コンセントバー)です。
19 インチラック等サーバーラック内に設置する PDU(Power Distribution Unit)で、2 系統の電流値の計測と、電圧有無の検知を行うことでサーキットプロテクタの状態を知ることが出来ます。
7セグメント LED などの表示部を持たず、ラック内での設定がしやすいアドレスライタを用い、瞬時値や設定値の読み出し、アドレス・伝送速度の設定が可能です。

また、ベースの PDU 部に対し、基板/カバーを上下反対に取り付けることができ、PDU への電源ケーブル接続や、伝送ケーブルの配線が、床下からでも、天井側であっても対応が可能です。



2 仕様

2.1 一般仕様

項 目	仕 様
使用周囲温度/湿度	0～+40℃/10～85%RH(結露なきこと)
保存周囲温度/湿度	-10～+50℃/10～85%RH(氷結、結露なきこと)
耐振動	JIS B 3502 に準拠
耐電圧	外部端子-外箱間 1000V、1 分間
雰囲気	腐食性ガス 可燃性ガスなきこと

2.2 伝送仕様

項 目	仕 様				
使用電源電圧	24V DC (21.6V DC ～ 27.6V DC)				
伝送方式	全 4 重トータルフレーム・サイクリック方式				
同期方式	フレーム/ビット同期方式				
伝送手順	AnyWire DB A40 プロトコル				
接続形態	バス形式 (マルチドロップ、T 分岐、ツリー方式)				
接続点数	Bit-Bus:最大 512 点(入力 256 ビット/出力 256 ビット) Word-Bus:最大 128 ワード(入力 64 ワード/出力 64 ワード)				
接続台数	最大 128 台※1				
伝送距離	総延長 100m、200m、500m、1km を選択				
伝送速度設定	62.5kHz (100m)／31.3kHz (200m)／15.6kHz (500m)／7.8kHz (1km)				
伝送サイクルタイム 単位[ms] (1 サイクルタイム値)	全 4 重モード Word-Bus	62.5kHz	31.3kHz	15.6kHz	7.8kHz
	入力 8W/出力 8W	2.5	5.0	9.9	19.8
	入力 16W/出力 16W	4.7	9.3	18.6	37.2
	入力 32W/出力 32W	9.0	18.0	36.0	72.1
	入力 64W/出力 64W	17.7	35.4	70.8	142
RAS 機能	伝送線断線位置検出、伝送線短絡位置検出				

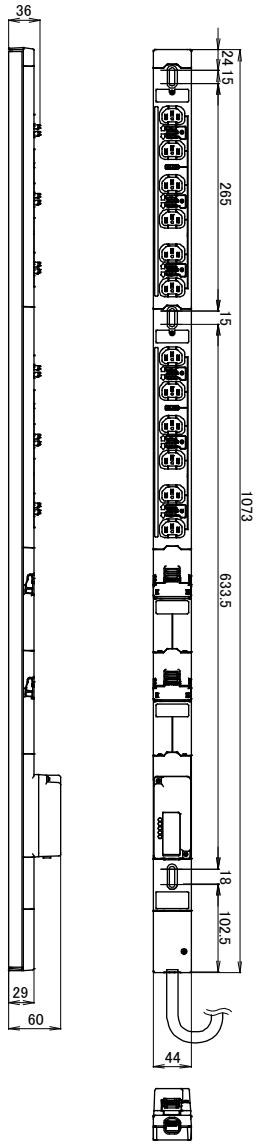
※1 接続ターミナル占有点数の合計が、伝送点数以内となることが必要です。

2.3 個別仕様

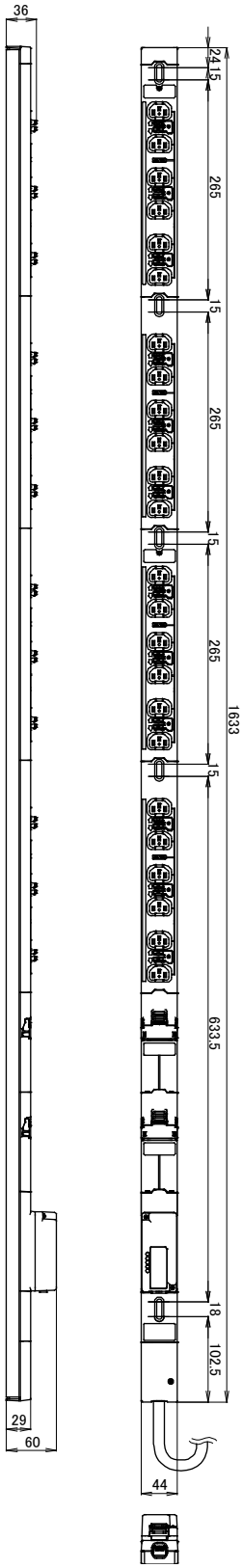
項 目	仕 様	
	A439SW-J2CT2-212/R	A439SW-J2CT2-224/R
占有点数	Word-Bus 入力 1 ワード／Word-Bus 出力 1 ワード	
測定要素	単相 2 線(1P2W)2 回路	
PDU 仕様	30A(15A 2 系統) 250V・20A サーキットプロテクタ×2 付	
コンセント口数	6 口×2	12 口×2
入力数	電圧:2ch 電流:2ch	
電圧要素	定格 AC200V	
電流要素	クランプ CT 入力 定格 20A	
計測要素	A 系統及び B 系統の各コンセントの 合計電流、電圧の有無	
適応クランプ	指定品(内蔵)	
消費電流	30mA	
質量	2710g	3390g

2.4 外形寸法図

■A439SW-J2CT2-212/R



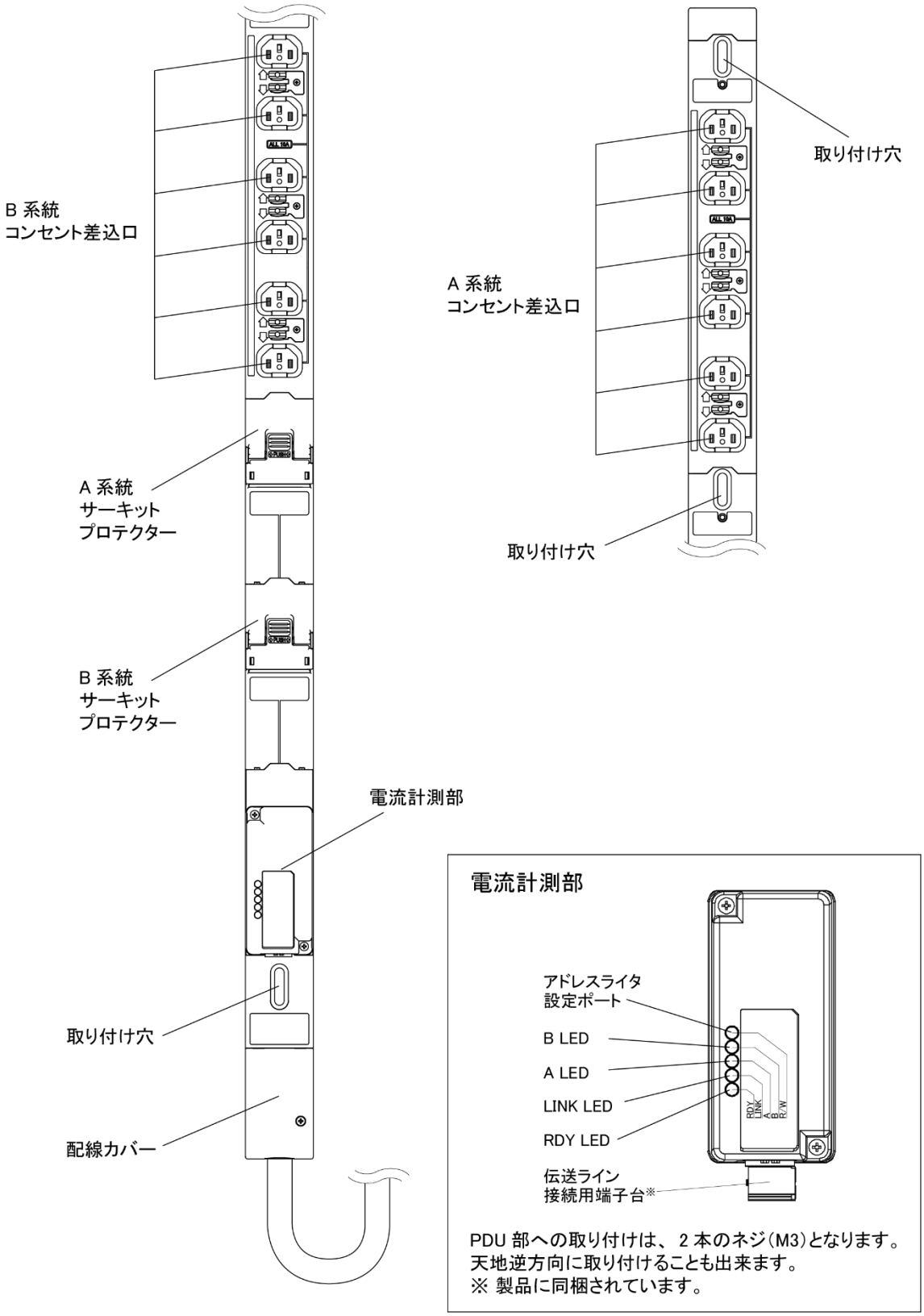
■A439SW-J2CT2-224/R



※出荷時 VCT5.5mm^2×3 芯・約 3.1m、NEMA L6-30P 付ケーブルを装着しています。

2.5 各部の名称

■A439SW-J2CT2-212/R の例

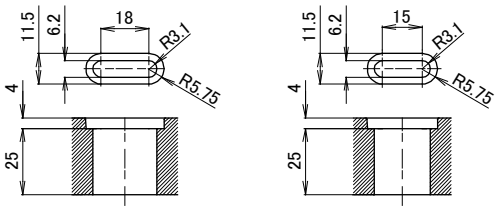


※出荷時 VCT5.5mm^2×3 芯・約 3.1m、NEMA L6-30P 付ケーブルを装着しています。

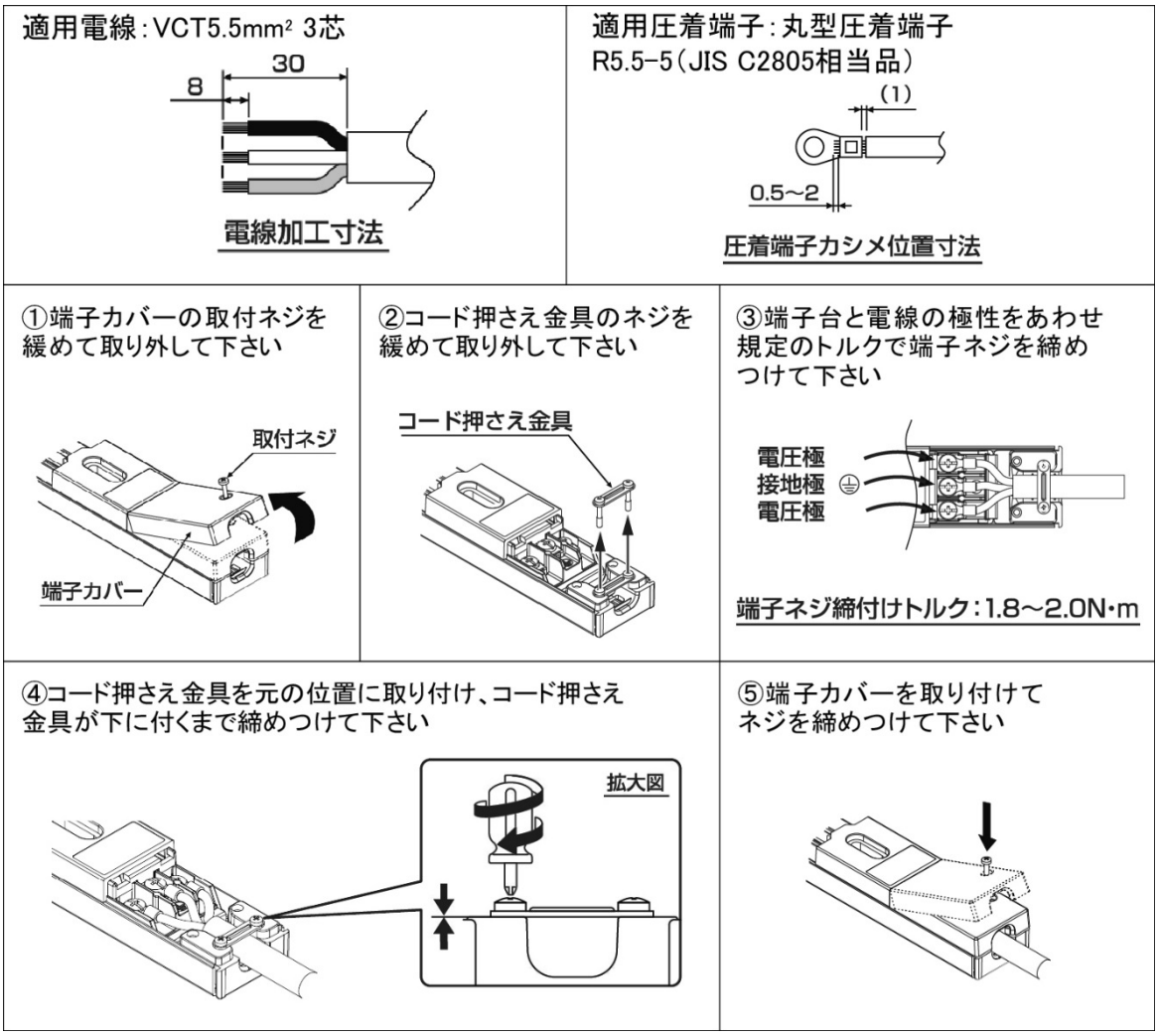
3　施工と使用方法

3.1 コンセント取り付け方法

本体取り付け穴を使って固定する場合、ねじはナベ小ネジ M5 または M6 をご使用下さい。
M4 ネジを使用する場合は、平座金またはトラス小ネジをご使用ください。

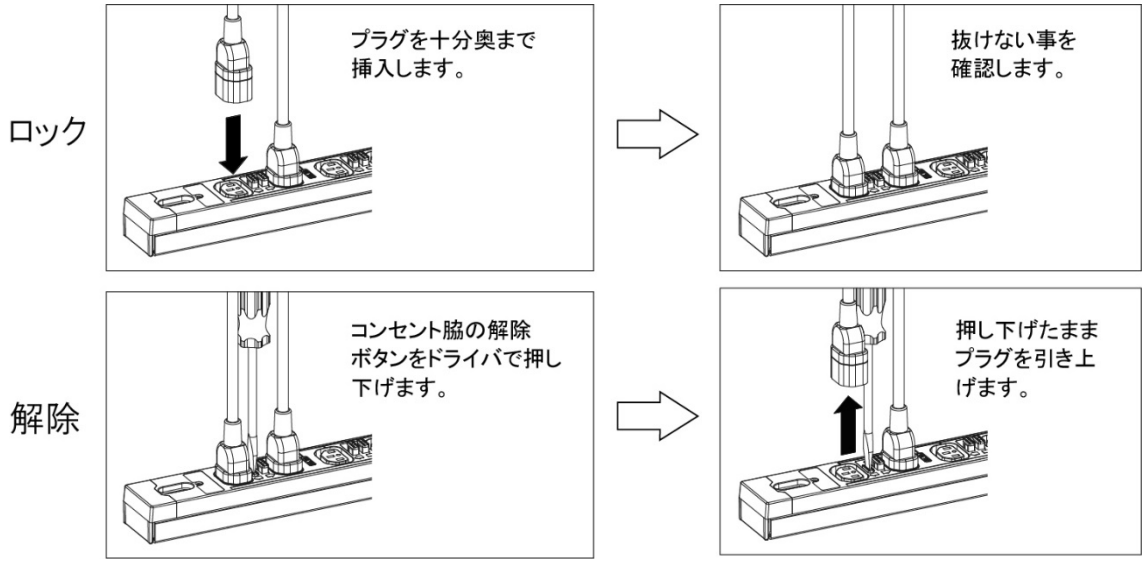


3.2 電線接続方法



※出荷時 VCT5.5mm²×3 芯・約 1.2m、NEMA L6-30P 付ケーブルを装着しています。

3.3 使用方法


ロック
プラグを十分奥まで
挿入します。
抜けない事を
確認します。
解除
コンセント脇の解除
ボタンをドライバで押し
下げます。
押し下げたまま
プラグを引き上
げます。

4　AnyWireBus 設定（アドレス・通信速度）

4.1 各種設定

AnyWireBus のアドレスと、伝送速度、通信プロトコルおよび測定周波数を専用のアドレスライタ（ARW-04）により設定します。
ARW-04 の詳しい操作方法は、ARW-04 の取扱説明書をご確認ください。

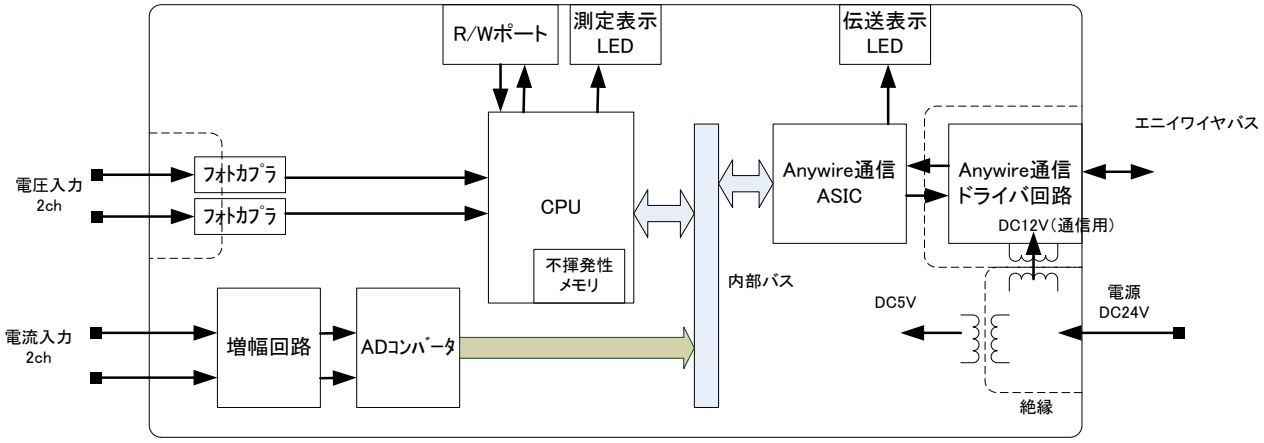
設定の変更は、電源がオンの状態で行ってください。
設定後は必ず本機の電源リセットが必要です。
※アドレスライタの設定モードによらず、設定した内容を反映させるには、必ず電源リセットが必要です。

項目	パラメータ	R/W	内容	出荷時設定
アドレス	Ad	R/W	入力 word　0～63	255
伝送距離	01	R/W	[0]：1km／[1]：500m／[2]：200m／[3]：100m	0
通信モード	02	R/W	[0]：非 CRC／[1]：CRC	0
測定周波数	03	R/W	[1]：50Hz／[2]：60Hz	1
現在の電流測定値 A 系	04	R/O	0～220(0.0～22.0A)	－
現在の電流測定値 B 系	05	R/O	0～220(0.0～22.0A)	－
ファームウェアバージョン	17	R/O	ファームウェアのバージョン	※1

※1　出荷時により都度変わります。

5　ハードウェア仕様

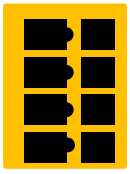
5.1　内部ブロック図



5.2　伝送ライン接続用端子台配列

DC24V 電源、AnyWireBus 伝送線(D,G)と電源線(24V,0V)を接続する、5.08mm ピッチのコネクタ端子台です。

端子配置を以下に示します。



信号名	専用ﾌﾗｯﾄｹｰﾌﾞﾙの線色		リンクコネクタ		
	0.75mm	1.25mm	ピン番号	型式	
24V	緑	茶	4	0.75mm	LP4-BK-10P(4 線用) LP4-WH-10P(4 線用、爪折れ防止)
0V	白	白	3		
D	赤	赤	2	1.25mm	LP4-WR-10P(4 線用、爪折れ防止)
G	黒	黒	1		
伝送ライン接続用端子台型式　プラグ側：734-204※　ソケット側：372-264（ワゴ社製）					

※製品に同梱されています。

6　測定仕様

6.1 電流入力

内蔵クランプ CT

項目	仕様	
CT 入力範囲	0～30[A]	
巻線比	3000:1	
負担抵抗	180Ω	
入力電圧	1.2V(実効値)	
A/D への入力電圧(p-p)	0.4216[V]～4.5784[V]	
A/D 変換値(10bit)	0.0V	000
	2.5V	1FF
	5.0V	3FF

6.2 電流値の計算

項目	仕様
計算方法	1サイクルの 1/32 分周の瞬時値の 2 乗平均
サンプリング周期	50Hz:0.625ms 60Hz:0.521ms
瞬時値 I1～I32	$I = \sqrt{(I1^2 + I2^2 + \cdots + I32^2) \div 32}$　←これの 4 回の平均 A/D 変換値 32 回分 X1～X32 ゼロ校正値 Z:入力0の時の A/D 変換値 フル校正値 F:入力 20A 相当(直流)入力したときの A/D 変換値 電流値(0.1A) $= 200[A] / (F - Z) \times \sqrt{\{(X1 - Z)^2 + (X2 - Z)^2 + \cdots + (X32 - Z)^2\} \div 32}$ (注意　Xn－Z はマイナスもある) の 4 回平均
カットオフ	定格値 20A の 1%　以下　0.2A 以下は 0
入力オーバー	定格値 20A の 10%超過　22A 超過は入力オーバー、データは 1FFFH(8191)

6.3 電圧入力

AC フォトカプラ入力

1 次側:　電圧 100V 時　100V／136kΩ＝0.73mA(実効値)　73[mW]

　　電圧 200V 時　200V／136kΩ＝1.47mA(実効値)　147[mW]×2

2 次側:　電圧あり＝オン(LOW)

7 LED 表示

名称	色	LED 状態	ユニット状態
LINK	緑	点滅	AnyWireBus の伝送がアクティブ
		点灯	伝送クロックなし、または伝送速度不一致
RDY	緑	点灯	伝送電源正常
		消灯	伝送電源が供給されていない
A	赤	消灯	A 系統の電流が規定値以下
		点灯	A 系統の電流計測中
		早い点滅(0.3 秒周期)	A 系統の電流オーバーフロー
		遅い点滅(2 秒周期)	A 系統の電圧なし
B	赤	消灯	B 系統の電流が規定値以下
		点灯	B 系統の電流計測中
		早い点滅(0.3 秒周期)	B 系統の電流オーバーフロー
		遅い点滅(2 秒周期)	B 系統の電圧なし

正常表示状態にならない場合は、上記表の要因を参考に障害を取り除いてください。

8　スケーリングについて

測定・演算されたデータは、エニイワイヤバスで送信するためにスケーリング（変換）されます。
各入力データとエニイワイヤバスで扱うデータのスケーリングは表の通りです。

送信するエニイワイヤ値　＝　測定値　／　ビット重み

また、測定値が以下の場合は、オーバーフロー　1FFFH (8191)を出力します。
・電流値が下表最大値を超える場合

・電流スケーリング表

計測要素	入力		スケーリング	ビット重み	最大値	マスク値
電流	電流センサ 30A	0～22.0A	0H～DCH （0～220）	0.1A	DCH （220）	測定値が定格の 1%以下で 0A に固定

9　データ構成

9.1 リモートユニット（本機）→マスタ

用途　：　このユニットに設定された「測定データ」または「設定値データ」を取得する場合に使用します。
Word-Bus 入力データを使用します。

プロトコル　：　AnyWire 拡張 512W-13 ビットプロトコル/AnyWire CRC プロトコル

データフォーマット　：　測定モード/設定モード ［要素番号(3bit)＋データ(13bit)］

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
要素番号			データ(13ビット)												

データ更新間隔　：　最大 約 4.6 秒（伝送遅れ時間を含む）

データ占有　：　上記構成で 1 ワードを占有します。

9.1.1 測定モード

測定モード時の入力ワードフォーマットを以下に示します。

① 非 CRC 時

入力 0word															
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
要素番号			データ												
0	0	0	生存確認 “1”固定												
0	0	1	A 系統電流測定値 ×0.1[A] 0.0[A]～22.0[A]												
0	1	0	A 系統 電圧あり／なし あり＝1 なし＝0												
0	1	1	B 系統電流測定値 ×0.1[A] 0.0[A]～22.0[A]												
1	0	0	B 系統 電圧あり／なし あり＝1 なし＝0												
1	0	1	A 系統 電圧あり→電圧なし 直前電流測定値												
1	1	0	B 系統 電圧あり→電圧なし 直前電流測定値												

② CRC 時

入力 0word															
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
更新フラグ	要素番号							データ							
※	0	0	0	0	0	0	0	未使用							
※	0	0	0	0	0	0	1	生存確認 “1”固定							
※	0	0	0	0	0	1	0	0							
※	0	0	0	0	0	1	1	A 系統電流測定値 L							
※	0	0	0	0	1	0	0	A 系統電流測定値 H							
※	0	0	0	0	1	0	1	A 系統 電圧あり／なし あり＝1 なし＝0							
※	0	0	0	0	1	1	0	0							
※	0	0	0	0	1	1	1	B 系統電流測定値 L							
※	0	0	0	1	0	0	0	B 系統電流測定値 H							

※	0	0	0	1	0	0	1	B 系統　電圧あり／なし　あり＝1　なし＝0
※	0	0	0	1	0	1	0	0
※	0	0	0	1	0	1	1	A 系統　電圧あり→電圧なし　直前電流測定値 L
※	0	0	0	1	1	0	0	A 系統　電圧あり→電圧なし　直前電流測定値 H
※	0	0	0	1	1	0	1	B 系統　電圧あり→電圧なし　直前電流測定値 L
※	0	0	0	1	1	1	0	B 系統　電圧あり→電圧なし　直前電流測定値 H
※	1	1	1	1	1	1	0	CRC 計算結果 L
※	1	1	1	1	1	1	1	CRC 計算結果 H

※更新フラグは、0 と 1 が交互に送信されます。

更新フラグが変化(0⇒1 または 1⇒0)したタイミングで取り込んで下さい。

9.1.2 設定モード

設定モード時の入力ワードフォーマットを以下に示します。

① 非 CRC 時

入力 0word															
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
要素番号			データ												
0	0	0	設定モード＝2												
0	0	1	計測周波数　50Hz＝1　60Hz＝2												
0	1	0	未使用＝0												
0	1	1	製品タイプ　18												
1	0	0	未使用＝0												
1	0	1	未使用＝0												
1	1	0	未使用＝0												

② CRC 時

入力 0word															
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
更新フラグ	要素番号							データ							
※	0	0	0	0	0	0	0	未使用							
※	0	0	0	0	0	0	1	設定モード＝2							
※	0	0	0	0	0	1	0	0							
※	0	0	0	0	0	1	1	計測周波数　50Hz＝1　60Hz＝2							
※	0	0	0	0	1	0	0	0							
※	0	0	0	0	1	0	1	直前電流測定値クリア状態							
※	0	0	0	0	1	1	0	未使用 0							
※	0	0	0	0	1	1	1	製品タイプ　18							
※	0	0	0	1	0	0	0	0							
※	0	0	0	1	0	0	1	0							
※	0	0	0	1	0	1	0	0							
※	0	0	0	1	0	1	1	0							
※	0	0	0	1	1	0	0	0							
※	0	0	0	1	1	0	1	0							
※	0	0	0	1	1	1	0	0							
※	1	1	1	1	1	1	0	CRC 計算結果 L							
※	1	1	1	1	1	1	1	CRC 計算結果 H							

9.1.3 CRC通信モードについて

通信プロトコルとして CRC モードを選択すると、ターミナルは CRC 計算値付きでデータを送信しますので、受信時にCRC値を計算し、送られてきたCRC値と比較することで不正なデータを排除することができます。

CRC の計算は、CRC16 CCITT $X^{16}+X^{12}+X^{5}+1$ を使用します。
・多項式は 0x1021
・初期値 0xFFFF
・計算方法左シフト
・出力非反転

要素番号 1 から、更新フラグを含むデータを、下位バイト、上位バイトの順で計算・送信します。

上位コントローラにゲートサーバをお使いの場合は、本プロトコルを内蔵した機種があります。
その場合は設定を行うだけで CRC 通信が行えます。対応機種についてはお問い合わせください。

9.2 マスター→リモートユニット（本機）

用途　：　このユニットの測定周波数などの「設定」を変更するときに使用します。
Word-Bus 出力データを使用します。

プロトコル　：　AnyWire プロトコル

データフォーマット　：　[要素番号(3bit)＋予約(2bit)＋データ(11bit)]

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
要素番号			予約		データ(11ビット)										

データ占有　：　上記構成で 1 ワードを占有します。

9.2.1 アドレス割付（設定モード時）

設定モード時の出力ワードフォーマットを以下に示します。

出力 0word															
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
要素番号			データ												
0	0	0	測定モード＝0、設定モード＝1												
0	0	1	計測周波数　50Hz＝1　60Hz＝2												
0	1	0	直前電流測定値クリア＝1												

※要素番号「010」の“直前電流測定値クリア＝1”は、測定モードでもクリア可能です。
表に記載している「要素番号＋データ」以外の値を書込まないでください。

10 設定値の読み書き手順

10.1設定値の読み出し方法

①出力ワードに「要素 0→データ 01H」を出力し、このユニットを設定モードに切替えます。
②入力ワードが「要素 0→データ 02H」となっていることを確認してください。
③入力ワードから現在の設定値を読み出してください。
④出力ワードに「要素 0→データ 00H」を出力し、測定モードに戻ってください。

10.2設定値の書き込み（変更）方法

①出力ワードに「要素 0→データ 01H」を出力し、設定モードに切替えます。
②入力ワードが「要素 0→データ 02H」となっていることを確認してください。
③出力ワードに変更したい「要素番号」「設定値」を出力してください。
・この操作で、ターミナル内部メモリに設定値を記憶します。
④入力ワードから変更された設定値を読み出してください。
・1 秒程度待ってから読み出してください。
・設定値に間違いや、変更を続ける場合は、引続き変更したい「要素番号」「設定値」を出力してください。
⑤出力ワードに「要素 0→データ 00H」を出力し、測定モードに戻ってください。

11 保証について

■保証期間
納入品の保証期間は、ご注文主のご指定場所に納入後1箇年とします。
■保証範囲
上記保証期間中に、本取扱説明書にしたがった製品仕様範囲内の正常な使用状態で故障が生じた場合は、その機器の故障部分の交換または修理を無償で行ないます。
ただし、つぎに該当する場合は、この保証範囲から除外させていただきます。
(1) 需要者側の不適当な取り扱い、ならびに使用による場合
(2) 故障の原因が納入品以外の事由による場合
(3) 納入者以外の改造、または修理による場合
(4) その他、天災、災害などで、納入者側の責にあらざる場合
ここでいう保証は納入品単体の保証を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。
■有償修理
保証期間後の調査、修理はすべて有償となります。
また保証期間中においても、上記保証範囲外の理由による故障修理、故障原因調査は有償にてお受けいたします。
■製品仕様およびマニュアル記載事項の変更
本書に記載している内容は、お断りなしに変更させていただく場合があります。

12 変更履歴

バージョン	日　付	変更内容
1.0	2023.04.26	
1.1	2023.06.07	2.3 個別仕様 9.2.1 アドレス割付
1.2	2026.07.24	連絡先更新、その他表現の統一

Anywire 株式会社エニイワイヤ

本　社　:〒617-8550　京都府長岡京市馬場図所 1
TEL: 075-956-1611(代) / FAX: 075-956-1613

営業所　: 西日本営業所、 東日本営業所、 中部営業所、 九州営業所

http://www.anywire.jp/

お問い合わせ窓口:

■ テクニカル サポートダイヤル

受付時間　9:00～17:00(土日祝、当社休日を除く)

075-952-8077

■ メールでのお問い合わせ　info@anywire.jp